

日本人高校生英語電子メール作成能力調査
— 英語ライティング能力に関する Can-do Statements 開発への基礎研究 —

**A Study of Japanese High School Students' Ability to Write E-mails
in English: A Fundamental Study on Developing Can-do Statements
With Regard to Writing Ability in English**

工藤洋路

Yoji KUDO

東京外国語大学大学院博士後期課程/日本女子大学附属高等学校

Tokyo University of Foreign Studies

The Doctor's Program of the Graduate School /

The High School Affiliated with Japan Women's University

Abstract

The purpose of this study was to assess the ability of Japanese high school students to write e-mail in English. During the study, 136 students were required to work on six different e-mail tasks, and to take an essay-writing test in which they wrote freely on a given topic. After evaluating each examinee's performance on the six e-mail tasks and the essay test, the following findings were made:

- 1) The students had difficulty with e-mail tasks requiring the expression of emotions, e.g. surprise, anger, concern, as well as the simultaneous use of two or more complex language functions, e.g. refusal with suggestion.
- 2) To some extent, a student's ability to write e-mail is related to their ability to write essays. Students must reach a certain (threshold) level of competence in essay writing, before they are able to successfully write complex e-mails.
- 3) Similar vocabulary and grammar are required to write e-mails and essays, but each requires the use of different language abilities.

Keywords

writing ability, Can-do Statements, e-mail, essay, threshold level

1. 研究の背景と目的

近年、言語能力がどのように発達していくかについての実証的な研究を基盤として、言語能力発達段階を記述する枠組みを開発する動きが多く見られるようになった。例えば、Common European Framework of References for Languages (以下, CEFR), Canadian Language

Benchmarks, American Council for the Teaching of Foreign Language Proficiency Guideline などは、それぞれ、設定された言語能力段階ごとに、多くの場合は言語技能別に、Can-do Statementsを開発している。また、テスト開発を主な目的としている TOEFL や TOEIC にもそれぞれ、Can-do Statements^{注1}に該当するものがあり、テスト得点ごとに、こちらも多くの場合言語技能別に、実際にその言語を使って何ができるかについての記述がある。このような言語能力の枠組みや Can-do Statements を日本の中学生や高校生に応用できる可能性も考えられるが、現段階では以下に示す問題点を挙げることができる。

CEFR などは、個別言語を対象としているわけでないで、個別言語に特有の発達段階を記述していない。従って、英語を研究の対象とした場合には、英語特有の発達段階を枠組みに組み込めず、英語という言語の包括的な枠組みにはなりにくい。また、上述した枠組みの多くは、言語の学習を始めたばかりの初級学習者から、母語話者のレベルに近い上級学習者まで、かなり言語能力に幅のある学習者を対象としていることから、各レベルでの能力記述が非常に抽象的になっている場合が多い。例えば、CEFR では、日本人中学・高校生の多くが該当するであろう A2 レベル^{注2}の Can-do Statements には、Can write short, simple notes and messages relating to matters in areas of immediate need (Council of Europe, 2001) というものがある。この記述だけでは、実際にどんなメモやメッセージを書くことができるのかが具体的にイメージしにくい。「短いメモ」とは何語程度なのか、「簡単なメッセージ」とはどんなメッセージのことかなど、もう少し具体化しない限り、この A2 レベルの能力の具体的な能力のイメージが浮かびにくいであろう。

このような理由から、海外で開発されている言語能力の枠組みや Can-do Statements を直接日本の中学・高校生へ応用することは危険であろう。そこで、本研究では、日本人中学・高校生を対象として開発された英語のテストに焦点を当て、有効な Can-do Statements を開発するための調査を行うこととする。研究対象とするテストは、ベネッセコーポレーションが開発した GTEC for STUDENTS とする。GTEC for STUDENTS のスコアレポートには、Can-do Statements の一種である「あなたの英語はこんなに使える」が存在していることから、本研究の目的に則しており、その Can-do Statements をより正確で具体的なものにする調査を行うこととする。この Can-do Statements も、海外の枠組み同様、言語能力別(グレード別)、そして言語技能別に記述が行われている。言語技能の中でも、本研究では、ライティングの技能に焦点を当て、Can-do Statements 開発への基礎調査を行う。

GTEC for STUDENTS のスコアレポートにおける、ライティング能力に関する記述例は、「英語の手紙や電子メールで、自分が書きたいことを辞書を引きながら書くことができます。さらに書く練習を積むと、辞書なしでも大体のことは書けるようになるはずです。」というものである。この記述には、「手紙」や「電子メール」といった現実の生活で使用する言語媒体が含まれているが、そこにも、上述したような具体性に関する問題点を指摘することができる。「電子メールで書きたいことが書ける」という記述だけでは、電子メールといってもどんなタイプ(こちらからの発信型なのか相手のメールに対する返信型なのか)のものか、また誰に対して送信する電子メールなのか、電子メール

^{注1} TOEFL(詳細には、TOEFL iBT)では、Can-do Statements ではなく、Language Competency Descriptor, TOEIC では、Can-do Tables と呼ばれている。

^{注2} CEFR の能力段階は、A1 (Breakthrough), A2 (Waystage), B1 (Threshold), B2 (Vantage), C1 (Effective Operational Proficiency), C2 (Mastery) の6段階となっている。

ルを送信する目的は何かなど、さらに具体的な記述が望まれるものが存在する。ただし、このような問題点があっても、テスト自体が日本人中高生を対象としているので、本研究で GTEC for STUDENTS を用いて、枠組みに関する調査を用いる意義は高い。

本研究では、GTEC for STUDENTS の受験者へのフィードバックの意義をさらに高めるために、GTEC for STUDENTS の Writing のテスト結果と、実際に英語を使って書くことの関連性を明らかにすることを目的とする。実際に英語を使って書くことについては、電子メールという媒体で実際に何が書けるかを調査する。電子メールに関しては、CEFR などの既存の枠組みに電子メールに関しての記述が見られるが、書く媒体の一例として記載されている (Council of Europe, 2001) に過ぎないため、本研究で、詳細な調査を行う意義が認められるであろう。同様に、GTEC for STUDENTS のスコアレポートでは電子メールで英語で書くことの記述はあるが、具体的に何を書くか、何の目的で書くかなどが明らかでないことから、電子メールに関する研究を行う必要性が認められる。電子メールが普及してきたのが最近であり、電子メールを用いて英語で書くことについての研究があまり行われていないことなどからも、本研究で電子メールに焦点を当てる意義が見出せる。そこで、電子メールを英語で作成する能力を調べるために、以下の調査を行った。

2. 調査

2.1 調査方法

同一被験者に、ほぼ同時期に、GTEC for STUDENTS の Writing のテスト、複数の電子メール作成タスク、電子メール作成の経験を問うアンケートを実施し、それぞれの数値データから、両者の関連性を検証する。

2.2 収集データ

2.2.1 複数の電子メール作成タスクのパフォーマンス結果

「電子メールを書く能力」といった場合、誰に対して、何の目的で、どんな電子メールを書くのかを明確にすることが本研究の目的のため、複数の電子メール作成タスクを用意する。実際に電子メールを作成してもらうために、パソコンが設置されている部屋で、各被験者はパソコン1台を前にして、電子メールを作成する。一般に使用されている電子メールソフトに類似した電子メール作成プログラムを組み、画面上で作業してもらう(資料1参照)。また、実際の電子メール作成場面にできる限り近づけるために、被験者は送信されたメールに対する返信のメールを作成する 6 種類のタスクを行い、返信する人物になりきるために、プロフィール表と週間予定表(資料 2 参照)が配布され、それに基づいた電子メールの返信を作成する。

電子メールのタスクについては、想定される言語機能を基準に以下の 6 つを設定した。この 6 つのタスクを 40 分以内で行う。

表 1. 電子メールタスク一覧

	受信メールの要点	主な言語機能
タスク 1	住所と電話番号を教えてください	個人情報の伝達
タスク 2	明日放課後テニスをしよう	報告&勧誘受諾
タスク 3	6 月 16 日 暇ですか？	予定の伝達&勧誘拒否
タスク 4	6 月 15 日の約束を忘れてしまった...	感情(驚き, 怒り, 心配など)表現& 予定伝達
タスク 5	6 月 15 日に英語を教える時間とれます	勧誘拒否&謝礼
タスク 6	6 月 16 日にミュージカルに行きましょう	勧誘拒否&勧誘

電子メールのタスクのパフォーマンス結果について、「課題達成(2点)」、「内容伝達(1点)」、「言語表現(1点)」の3観点で採点を行う。「課題達成」ではプロフィール通りで、想定される言語機能が達成されているか、「内容伝達」では明確な伝達内容が書かれているか、「言語表現」では電子メールのやりとりを想定した上で、理解可能な文法や語彙を用いているか、をそれぞれ評価基準とする。電子メールを実際のコミュニケーションの手段として用いた場合、相手に誤解を与えたり、理解が不可能なものでない限り、コミュニケーションは成立することから、今回の採点においても、意図する内容が伝わっている限りは減点対象にはしないこととする(採点基準については、資料3を参照)。

2.2.2 GTEC for STUDENTS の Writing のテスト結果

意見展開型で与えられたテーマに対する自分の考えを表現する問題1題を、自由記述形式で出題し、採点は、「語彙(Vocabulary)」、「文法(Language Elements)」、「構成(Organization)・展開(Development)」の3観点および、内容評価を含めたスコアとグレードを数値で出す。分析対象は、「スコア」、「グレード」、「語彙」、「文法」、「構成・展開」の5つとする。以下はその問題例である。

【GTEC for STUDENTS の Writing の問題例】

「高校生はアルバイトを積極的にすべきだ」という意見があります。この意見に賛成か反対か、いずれかの立場をはっきりさせ、できるだけたくさんの理由を取り入れながら、あなたの意見を英語で書きなさい。

2.2.3 電子メール作成の経験を問うアンケート結果

電子メールのタスクを行う前に、被験者は、パソコンの画面上で、英語で電子メールを作成した経験があるかどうかと、その達成度(未経験者は推定達成度)についてのアンケートに答える。

【アンケート内容】

Q1 あなたは、英語で電子メールを書いたことがありますか？

1. 書いた事がない
2. 少し書いたことがある
3. 何度も書いたことがある
4. 頻繁にやりとりをしている

Q2 あなたは英語で電子メールを書いたとき、うまく書けましたか？

(経験がない人は書いてみたらうまく書けると思いますか？)

1. 定型的な、決まり切った簡単な内容なら書くことができた。(書けると思う)
2. 短い簡単な内容なら、自分の書きたいことをなんとか書けた。(書けると思う)
3. ある程度の長さのものでも、自分の書きたいことをだいたい書けた。(書けると思う)
4. ある程度の長さのものでも、自分の書きたいことをほとんど書けた。(書けると思う)

このアンケートの目的は、英語での電子メール作成能力についての自己評価についての概要を知ることである。Can-do Statements を開発する場合、被験者が自分の能力を自己評価することによりその人の能力を知る方法がある。上記のアンケートは、電子メール作成能力に関して自己評価を行った場合、自己の能力をどのように判定するのかについて一般的な傾向を調査する意義がある。そして、電子メールを書く能力に関するその自己評価を、電子メール作成の経験値と関連づけることにより、経験と自己評価の関連性も見えてくる。本研究の主たる調査ではないが、電子メールを実際に実施できない環境でも、経験に基づく自己評価によってその能力を推定することができれば、Can-do Statements の開発に貢献することが可能であろう。この点は、本研究では、副次的な目的と捉える。

2.3 被験者

被験者に関しては、3つのスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)指定校より、合計136名を設定する。その内訳は、A校52名、B校21名、C校63名である。

3. 結果と考察

電子メールタスクのパフォーマンス得点(資料4参照)に関しては、被験者が作成した多くの返信メールが、コミュニケーション上は問題がないと判断され、結果的にどのタスクも平均点が高くなった。ただし、その中でも、比較的難易度が高いものが、タスク4とタスク6であるため、その原因を、想定した言語機能に探ってみる。すると、タスク4では、驚き、怒り、心配などの感情を表現することと、予定を伝達することが達成すべき言語機能として設定されていた。タスク6では、相手からの勧誘を断ると同時に別の提案を持ちかけるという複雑な言語機能を達成することが採点基準となっていた。この2つのタスクにおいて、被験者間でパフォーマンスの差が見られたこと、特に「課題達成」の観点で得点が取れた被験者とそうでない被験者がいたことは、電子メール作成能力の発達段階に、上記のような言語機能を使いこなす能力が関わっている可能性があることが示唆できる。

そこで、電子メールタスクの得点と、GTEC for STUDENTS Writing テスト得点(資料5参照)の相関を算出し、英語での電子メール作成の能力に、何らかの発達段階を見出せる要素が存在するかを検証してみる。電子メールタスク得点にも、GTEC for STUDENTS Writing テスト得点にも、トータル得点と、それを導く下位得点があるので、すべての組み合わせで相関値を算出した(資料7参照)。まず、電子メールタスクの総点とGTEC for STUDENTS Writing のトータルスコアの相関係数が0.41であることから、電子メールを作成する能力と、意見展開型で与えられたテーマに対する自分の考えを表現する能力に、それほど高い相関が認められるわけではないことが判明した。ただし、相関係数を用いて考察を行うことは、電子メールタスク得点のデータの各項

目において、平均値が非常に高く、また標準偏差も非常に小さいことから、危険である。そこで、各項目間のクロス集計表から、GTEC for STUDENTS Writingと電子メールタスクの関連性を探ってみる。その結果、難易度の高いと判定されたタスク4とGTEC for STUDENTS Writingには、関連性が存在すると思われる(資料8参照)。電子メールタスク4が達成される(トータル得点が3点以上と設定)ためには、GTEC for STUDENTS Writingテストで、グレード3ないし4以上を取る能力が必要であることがわかる。従って、電子メールを作成する能力と、意見展開型で与えられたテーマに対する自分の考えを表現する能力に何らかの関連性がある場合があると言える。その関連性とは、相関関係ではなく、ある一定のレベルを超えると、同じ程度に達成可能な事柄が存在するようになるという関連性である。言い換えると、最も難易度が高いタスク4を達成する、つまり、複雑な電子メールでも英語で作成できるthreshold levelは、GTEC for STUDENTS Writingテストではグレード3ないし4であると言える。以下の作文例からも、グレード3を超えるとほぼ同じ程度に電子メールタスクが達成できることがわかる。グレード3の被験者もグレード5の被験者も同程度に電子メールタスク4が達成されていることがわかる。

【GTEC for STUDENTS Writing グレード 3 の被験者の電子メールタスク 4 の作文】

Hello, Julie!! Yeah, I remember about that. I'm looking forward to seeing the musical with you! But 18th is better than 16th for me. If you're good, can we go to see that on 18th? Please write back. Thank you. Hikaru.

【GTEC for STUDENTS Writing グレード 5 の被験者の電子メールタスク 4 の作文】

Hello! How are you? Yes, let's!! I'm really looking forward seeing the musical!! I'm sorry I have another plan on June 16th. So let's go 18th. I'm free that day. Then when and where are we going to meet at? Hikaru

GTEC for STUDENTS Writingと電子メールタスクの関連に関して、threshold levelの存在の可能性があることから、その理由を探るために、下位項目を見てみる。同様に、クロス集計表を用いると、上述した電子メールタスク4とタスク6の下位項目と、GTEC for STUDENTS Writingテストの下位項目との間に、ある程度の関連性が見られる(資料9参照)。トータル得点と同様、ここでも、GTEC for STUDENTS Writingの下位項目である「語彙」と「文法」と、タスク4の「トータル」との間に、threshold levelの存在が認められるであろう。従って、電子メール作成にも、自由記述式のライティングに必要な語彙や文法の運用能力が必要であることもわかる。一方で、もう1つの下位項目である「構成・展開」とタスク4とのクロス集計では、関連性は見えなかった。このことは、GTEC for STUDENTS Writingのような自分の意見を展開していくエッセイ型のライティングを書く能力と、電子メールを作成する能力に違いが存在することを示している。

最後に、電子メール作成経験を問うアンケート結果(資料6参照)によると、英語で電子メールを作成した経験のある人は全体の約4割程度であり、その経験がある人の方が、若干、自分の電子メール作成能力を高めに評価している。ただ、全体の傾向としては、電子メールを英語で作成する能力に対する自己評価は低めであると言える。

4. 結論と今後の課題

本研究では、電子メールといってもタスクによって難易度に差があり、特に、驚き、怒り、心配などの感情を表現することと、相手からの勧誘を断ると同時に別の提案を持ちかけるような複雑な言語機能を果たす電子メールは難易度が高いことが明らかになった。また、意見展開型で与えられたテーマに対する自分の考えを表現する能力と、電子メールを作成する能力には、重なっている要素もあれば、そうでない要素もある。重なっている要素として明らかになったこととして、電子メール作成にも、意見展開型の自由記述式のライティングに必要な「語彙」や「文法」の運用能力が必要であることであることが挙げられる。また、複雑な言語機能を達成することが必要な電子メールを作成する能力と意見展開型の自由記述式のライティングを行う能力の間に、**threshold level**が存在することも判明した。逆に、重なっていない部分としては、意見展開型の自由記述式のライティングに必要な「構成・展開」の能力が挙げられる。重ならない部分が存在するということは、同じ英語でのライティングとはいえ、電子メールと自由記述作文というように、求められるテキストタイプが違えば、必要な能力、あるいは引き出される能力が異なるということが言える。今回の調査で実施したような電子メールを書く能力と、エッセイ型のライティングに必要な論理的に文章を構成し、それを展開していく能力の関連性は薄いと言える。

今後の課題としては、本研究で利用した電子メールタスクの採点規準は非常に簡易なものであったため、タスク得点にあまり差が出なかったことから、電子メールタスクの評価規準の再構築を行う必要がある。また、採用した電子メール作成タスクは、すべて返信型であったので、自分から最初のメールを送信する発信型の検証も必要である。最後に、電子メールの作成の経験を問うアンケート結果から、電子メールを英語で作成する能力に対する自己評価は低い傾向にあることが分かったが、このことは、**Can-do Statements** を自己評価による回答を基に開発する際には、考慮に入れたい。

参考文献

Council of Europe. 2001. *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.

資料 1. 電子メール作成画面

資料 2. 電子メール作成：作成者プロフィールと週間予定

Profile	Hikaru
School	Minami High School
Club	Basketball
Likes	Movie, Soccer, Comedy, Musical
Address	1-1-1 Minato-Town, Kanagawa Pref.
Phone Number	045-953-ABCD
Mail Address	hikaru@gtec.ne.jp

Schedule	
6/12 [Mon.]	after school: no club (look for someone to spend time with)
6/13 [Tue.]	after school: club (16:00-18:00)
6/14 [Wed.]	after school: no club (look for someone to spend time with)
6/15 [Thu.]	after school: go to Yokohama with Chris to buy shoes & t-shirts, watch soccer game at the stadium together (18:30-21:00)
6/16 [Fri.]	school holiday: study at home (until 12:00), movie with Peter (14:00-17:00) , dinner at home with my family (from 18:00)
6/17 [Sat.]	after school: club (16:00-18:00), after club: buy basketball books with Chris
6/18 [Sun.]	want to go to see <u>MUSICAL!</u> (look for someone to go with)

資料 3. 電子メールタスク採点例

「課題達成(2点)」

タスク 4 (2 点)	Hey,hey,hey!Chris. What's the matter with you? We are to go to YOKOHAMA!! to buy shoes &T-shirts,and then watch soccer game at the stadium TOGETHER! how about go restaurant after watching the game? Hikaru 【感情表現, 予定伝達の機能が達成されている】
タスク 5 (1 点)	Hi! Mike. I'm sorry.I can't meet that day. How about on June 14 (Wednesday)? If you are free on June 14th, please send me a mail. Bye 【謝礼表現なしのため減点 1】

「内容伝達(1点)」

タスク 1 (0 点)	Hi! I am Hikaru. I'm pretty good. We can meet you ? Very wonderful! O.K. I'll send you my home address and phone number. 1-1-1 Minato-Town, Ibaraki Pref. 0294-953-ABCD See You.Hikaru. 【前半部分に, 受信メールとのつながりが不明な点がある】
タスク 5 (0 点)	Hi,Mike! How are you? I want to help my English home work with you. But The day, I have already plan.I'm going to go Yokohama with Chris. I'm sorry. Please help me someday. Good bye. Hikaru. 【I want to help my English home work with you.が返信メールとして機能していない】

「言語表現(1点)」

タスク 1 (0 点)	1-1-1 Minato-Town, Kanagawa Pref. 045-953-ABCD 【要件のみで, 電子メールのやり取りの想定がない】
タスク 5 (0 点)	Hello,Mike,,, Thank you to remember asking you about my homework. But,,, I have already have a plan on June 15. I will go to Yokohama with Chris. I'm really sorry. Hikaru 【Thank you to remember asking you about my homework.の意味が不明】

資料 4. 電子メールタスクパフォーマンス得点

電子メールタスク得点																			
タスク 1				タスク 2				タスク 3				タスク 4				タスク 5			
課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	タスク 6			
																課題達成	内容伝達	言語表現	トータル
2.0	1.0	1.0	3.9	2.0	1.0	1.0	3.9	1.9	1.0	1.0	3.9	1.3	1.0	1.0	3.2	1.5	0.9	0.9	3.2
平均																10.1	5.6	5.6	21.3
標準	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.3	0.4	0.1	0.1	0.5	0.5	0.2	0.1	0.6	0.7	0.3	0.4	1.2
偏差																1.5	0.7	0.7	2.5

資料 5. GTEC for STUDENTS Writing テスト得点

		GTEC for STUDENTS Writing テスト			
		スコア	グレード	語彙	文法
平均		120.2	4.2	6.1	5.5
標準偏差		17.4	0.6	1.0	0.9
				構成・展開	
					6.0
					1.1

資料 6. 電子メールに関するアンケート結果

Q1 英語で電子メールを書いたことがあるか？				Q2 そのとき、うまく書けたか？ (書けると思うか？)			
ない	少し	何度も	頻繁に	定型的な、決まり切った簡単な内容	短い簡単な内容／書きたいことをなんとか	ある程度の長さ／書きたいことをだいたい	ある程度の長さ／書きたいことをほとんど
59	58	14	5	26	76	27	7
↑				17	35	3	4

資料 7. 電子メールタスク得点と GTEC for STUDENTS Writing 得点の相関

ある程度の相関(0.3 以上)が見られる項目		電子メールタスク得点										
		2	4			6				課題達成・計	内容伝達・計	メール総点
		課題達成	課題達成	内容伝達	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル			
GTEC for STUDENTS Writing	スコア	0.31	0.31	0.33	0.37		0.30		0.31	0.39	0.35	0.41
	グレード				0.32		0.30		0.31	0.38		0.37
	語彙		0.32		0.34					0.42		0.39
	文法				0.32	0.30				0.44		0.42
	構成・展開									0.31		0.27

資料 8. 電子メールタスク 4 と GTEC for STUDENTS Writing「グレード」のクロス集計表

		タスク 4 トータル					
		0	1	2	3	4	計
GTEC 「グレード」	2		1				1
	3	1		1	9	2	13
	4		1	3	51	24	79
	5				25	17	42
	6					1	1
	計	1	2	4	85	44	136

資料 9. 電子メールタスク 4 と GTEC for STUDENTS Writing「語彙」「文法」のクロス集計表

		タスク 4 トータル					
		0	1	2	3	4	計
GTEC 「語彙」	3				1		1
	4	1	1	1	2		5
	5			2	15	8	25
	6		1	1	49	18	69
	7				10	6	16
	8				8	12	20
	計	1	2	4	85	44	136

		タスク 4 トータル					
		0	1	2	3	4	計
GTEC 「文法」	3		1	1	1		3
	4	1			4	3	8
	5		1	3	35	13	52
	6				41	23	64
	7				3	3	6
	8				1	2	3
	計	1	2	4	85	44	136